

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム 天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	H30年9月24日	評価結果市町村受理日	平成30年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200642-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年10月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人や家族の意思を配慮した情報提供を行い、選択や決定ができる支援を心がけている。本人のADLや疾病を日々観察し、変化に間に合うようしくみづくりをしている。認知症になっても本人、家族ともに笑顔で暮らせるように、初期の段階から終末期までの生活を支える役割に徹している。暮らしやすい、訪れやすい住空間や人的環境が保たれるように、そして誰もがまた来たいと思えるような場づくりに努めている。徐々にではあるが地域でのつながりも増え、存在価値のあるグループホームとして認められるように努めている。医療的なバックアップ体制も十分である。できなくなったことよりも今残されているできる気持ちや力を鼓舞し、お互いの笑顔のために日々研鑽中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療機関との連携で医学と東洋医学の両面からの支援があり、介護職員中12名が看護師資格を有していることは利用者の日々の体調管理、健康面から終末期における看取りまで、利用者及び家族が安心できる大きな要因となっている。
 家族との連携、信頼関係が強くホーム長の考える「生活歴を把握し、利用者の強みを発見する」取り組みが理解されている。
 利用者との仲の良さや馴れ合いを、はき違えない事を全職員に指導し適切な支援が出来るように努めている。利用者の思いや尊厳を大切にしたい利用者本位の支援の実践のために、管理者は職員の育成、スキルアップに取り組んでおり職員もそれに応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関に掲示し、朝・夕の申し送り時に唱和し、理念の浸透を心がけている。	運営理念は事業所内に掲示し、申し送り時に唱和している。理念について、職員の理解度の確認及び共有・実践のための取り組みがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の保育園や踊りの保存会などを行事に招いて交流を深めている。夏祭りは近隣の人々にも参加を呼び掛けている。	自治会との結び付きが強く、地域に顔見知りも多い。利用者の外出は、住民から連絡が入るほど事業所と利用者が認知されている。保育園との交流や地元の踊りの保存会が来所し、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに認知症のサロンやデイサービス等があるため当施設からの情報発信は隔月発行の天津風だよりを配布することに留まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で様々な意見を頂き、カンファレンスなどで話し合ったりシェアしてサービスの質の向上に生かそうと試みている。	2ヶ月に1度の開催で、望ましい参加者の出席があり、情報交換のできる環境が整っている。災害対策の議案では、これからの地域との協力体制を構築するための話し合いが始められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回自治体、包括、ケアマネ、地域の病院を回り情報交換に努めている。	市の担当者、地域包括センター、民生委員など行政の担当者が推進会議に出席しており、多彩な意見交換があり協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束はしていない。見えない拘束についても勉強会で学び実践している。	身体拘束防止、虐待防止の勉強会は、毎月開催され、合同職員会議やカンファレンスでも確認しホーム全員の意識の向上に努めている。管理者の指導は勿論のこと職員相互の注意により、適切な支援に繋げる仕組みを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見える見えないにかかわらず虐待防止のためのしくみや予防策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に身寄りがない場合や家人が遠方にいる方は、その都度家人等と話す機会を設け支援の方針を立てている。権利擁護に関しての学びはこれからろり組んでいく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等に十分時間を掛け説明し、同意を得ることを心がけている。変更時には口頭、文書の両面で理解できるように努め納得された上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時に近況報告をしたり、要望を聞き取りしたりしながら情報交換をしている。本人や家族の意向を反映したケアができるように職員間では、その情報を素早くシェアしている。	来所時の家族意見や要望は、全職員で共有できるように、業務日誌にて記録している。SNSを活用した取り組みもあり利用者の日々の生活も含めて報告は密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を設け、提出された課題について月1回の業務改善委員会を行い解決に向け前向きに取り組んでいる。	職員の意見や要望は、業務改善提案書を作成し、会議時の議題として検討している。職員と管理者との良好な関係が構築されており、いつでも話ができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課に使用しているアンケートや随時か課題があれば本人や組織にとりベターな方向性を見極めサポートしている。職員が持てる能力を生かせるように配慮したしくみを模索している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のOJTに力を入れ、社外での研修にも参加しやすい制度を導入中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間で社外研修などで得た同業者からの情報を共有し良いところは取り入れるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	たとえば、口腔ケアを行う時義歯が合わなく抵抗される場合は、装着せず食事の形態を変え摂取する場合がある。本人も負担がなく安心されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家人が面会に来られた時などには、積極的にコミュニケーションを取り良い関係が保たれるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩き回る場合は、拘束せず見守り本人の意図を図るように努めている。今、何が必要かを判断し、家族等へ情報提供した上で選択できるように促している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを注意深く観察し、できることは他の入居者の分も含め、本人にして頂き、できないことを支援していく本人の強みをできるだけ活かすことを念頭に置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人のニーズを満たすために家族の力、社会資源等を有効に利用できる関係性が築けるように入居時から取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天津風だよりでイベントの案内を出し、入居者様に会いに来やすいような環境作っている。入居者様からの希望があれば家人や知人へ電話をかけていただいている。	家族の協力のもと、墓参りなどを支援している。ホームに来所し易いように、家族だけでなく、知人や旧知の人にも連絡し、行事案内を出している。馴染みの喫茶店にも訪れている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休む際、話が会いそうな入居者様同士が隣になるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった入居者様の49日や1周忌の法要に合わせてお花を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時に本人の希望を聞き、本人本位の支援ができるようにしている。	日々の支援の中で、利用者の様子を詳細に観察し希望や要望を汲み取る努力をしている。メディカルケアステーションを利用し、利用者状況の経過や履歴を共有し支援にあたっている。介護計画作成時にも記録を参考にしている。	利用者の意向の把握は介護計画作成時には欠かせないものとなってきている。今後も意向の把握について積極的な取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事務室に、介護ファイルやモニタリングファイルを置きいつでも職員が必要な時に閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の行動パターンや自立できることや好みを日々把握しながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場情報を収集し、3か月の定期モニタリングや毎日の申し送り時に共有し、介護計画にその内容を盛り込み随時更新している。	3ヶ月毎に見直しを実施している。メディカルケアステーションの詳細記録とモニタリングから随時修正を行っている。利用者と家族の意向と職員情報による最適な介護計画を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、毎時様子や反応を記録し、共有できているため見直しや実践ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化や家人のニーズなども踏まえて実行案を提案し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や地域のボランティアなども利用し、安全に心身を自立できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族や本人の意向を伺い、医療的な支援をしている。施設の主治医かかかりつけ医にするかを選択して頂いている。救急搬送時と同様です。	協力医の月2回の往診と、歯科医の訪問診察にて十分な医療体制を構築している。ホームの協力医だけでなく、以前からの主治医の継続もこの鵜である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良の時は看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院のS. Wと定期的に連絡をとり情報交換をしておく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、医師、看護師から本人の状況に応じて情報交換を行い、その後の治療方針を決めている。その情報は医療用のSNSを通して素早く看護師、介護職などに伝え対応している。	看取りに関しては、医師と家族、担当職員との綿密な話し合いのもと対応している。看取り経験のある職員や勉強会にて対応を学び支援に活かしている。管理者は看取りを行うことでの職員の精神面へのストレスに対してのケアも忘れていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は行っていないが、急変や事故発生にはマニュアル化した手順に従い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	原則月に1回の夜間想定避難訓練を行い、職員が身につくようにしている。	年二回の消防立ち合いでの防災訓練とホーム独自の避難訓練があり、夜間を想定して行うこともある。救命救急、AED使用方法の研修を職員は受けており、災害発生時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ丁寧な言葉がけを心がけ人格を尊重し対応している。	利用者への声掛けや言葉遣い、トイレ介助や入浴介助時などの場面では利用者を尊重した配慮ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限りの範囲で個人の希望に沿った支援が行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日で変化する心身状態をより理解できるよう観察し、本人の希望も取り入れ、洗濯たたみなども手伝って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型を気にする利用者にはヘアアクセサリを用意し、その日の気分で選んで頂くなど本人の楽しさを引き出す支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日のメニューを掲示し、利用者とのコミュニケーションで話題にすることで食事への関心や意欲を引き出す支援を行っている。	職員は食事メニューについて、利用者と話し合い説明もしている。準備を手伝える利用者もあり、和気あいあいと食事がとれる雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	早食いをして体調を悪くする利用者には、分食で提供するなど個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医指導の下に歯間ブラシや舌ブラシも利用している。本人の能力に応じた介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンを考慮した誘導を行っている。起立ができる方はトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を参考に、自立の利用者には見守りを、リハパンやパット利用者には時間誘導をと柔軟に対応し、トイレでの排泄が出来るように利用者の尊厳に配慮しつつ支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を午前・午後と食事以外からも摂取するように取り組んでいます。自家製のヨーグルトの摂取もしています。便秘予防の献立も活用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に一度の入浴日に体調や気分を伺ってから、入浴していただくように心がけています。	隔日の入浴日を設定し、一般浴と機械浴での入浴支援を行っている。個人用の石鹸やオイル使用の利用者もおり、温度対応や入浴剤の使用により気分良く入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、床暖房、加湿器を使用して室温の調整を行い、住環境を整えています。日中の休眠時には個々のソファも活用しています。その時々合わせたアロマの香りを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能や副作用については個別のモニタリングシートに記入し理解に努めている。また、変更時も履歴がわかるように様式を変更した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿って、洗濯物の整理や調理、清掃の補助などをして頂いている。自分の役割が毎日の生活のはりになるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必ずしも日常的に外出できるとは言い難い面がある。しかし、外出支援行事を通じて本人のニーズを満たせるように努めている。	ホーム行事として年間に3回の遠足(桜見物、あじさい鑑賞、秋の紅葉狩り)を実施しており、リフト車を使用し車いすの利用者も参加できている。その他温泉への外出や、喫茶店へ出掛ける利用者の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の強い要望がある時には、なくなってもかまわないような金額を家族同意の上で所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の携帯を使われる方はスタッフが操作を手伝ったりして話して頂いている。以前は手紙を書かれる方には投函の補助などをしてきた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、香りなどが適度に保立てるような住空間づくりを心がけている。季節感を感じられるように花や壁掛けの絵を変えている。	木の香が漂う共有空間は広々としており、ログハウス独特の居心地の良さがある。木の温かみも感じられ季節がらハロウィン飾りがフィットして、利用者は穏やかに過ごしている。利用者の移動に際しての安全確保への配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間帯は、原則どこにいても自由になっており、気の合う同志が話をしやすいように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や賞状などを飾ったり、独居の方の場合仏壇を置いている場合もある。	居室は清掃が行き届き、清潔感が溢れている。ペンションの部屋のようにも感じられる間取りは、安全確保のためにも家具が考えて配置されている。家族写真も貼られ、落ち着いた居室となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に入居当初は場所の把握が難しそうなため、早めの声掛けを心がけている。トイレなどの表示にはもうひと工夫必要かもしれない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム 天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	H30年9月24日	評価結果市町村受理日	平成30年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200642-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年10月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人や家族の意思を配慮した情報提供を行い、選択や決定ができる支援を心がけている。本人のADLや疾病を日々観察し、変化に間に合うようしくみづくりをしている。認知症になっても本人、家族ともに笑顔で暮らせるように、初期の段階から終末期までの生活を支える役割に徹している。暮らしやすい、訪れやすい住空間や人的環境が保たれるように、そして誰もがまた来たいと思えるような場づくりに努めている。徐々にではあるが地域でのつながりも増え、存在価値のあるグループホームとして認められるように努めている。医療的なバックアップ体制も十分である。できなくなったことよりも今残されているできる気持ちや力を鼓舞し、お互いの笑顔のために日々研鑽中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関に掲示し、朝・夕の申し送り時に唱和し、理念の浸透を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の保育園や踊りの保存会などを行事に招いて交流を深めている。夏祭りは近隣の人々にも参加を呼び掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに認知症のサロンやデイサービス等があるため当施設からの情報発信は隔月発行の天津風だよりを配布することに留まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で様々な意見を頂き、カンファレンスなどで話し合ったりシェアしてサービスの質の向上に生かそうと試みている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回自治体、包括、ケアマネ、地域の病院を回り情報交換に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束はしていない。見えない拘束についても勉強会で学び実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	見える見えないにかかわらず虐待防止のためのしくみや予防策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に身寄りがない場合や家人が遠方にいる方は、その都度家人等と話す機会を設け支援の方針を立てている。権利擁護に関しての学びはこれからろり組んでいく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等に十分時間を掛け説明し、同意を得ることを心がけている。変更時には口頭、文書の両面で理解できるように努め納得された上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時に近況報告をしたり、要望を聞き取りしたりしながら情報交換をしている。本人や家族の意向を反映したケアができるように職員間では、その情報を素早くシェアしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を設け、提出された課題について月1回の業務改善委員会を行い解決に向け前向きに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課に使用しているアンケートや随時か課題があれば本人や組織にとりベターな方向性を見極めサポートしている。職員が持てる能力を生かせるように配慮したしくみを模索している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のOJTに力を入れ、社外での研修にも参加しやすい制度を導入中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間で社外研修などで得た同業者からの情報を共有し良いところは取り入れるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	たとえば、口腔ケアを行う時義歯が合わなく抵抗される場合は、装着せず食事の形態を変え摂取する場合がある。本人も負担がなく安心されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家人が面会に来られた時などには、積極的にコミュニケーションを取り良い関係が保たれるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩き回る場合は、拘束せず見守り本人の意図を図るように努めている。今、何が必要かを判断し、家族等へ情報提供した上で選択できるように促している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを注意深く観察し、できることは他の入居者の分も含め、本人にして頂き、できないことを支援していく本人の強みをできるだけ活かすことを念頭に置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人のニーズを満たすために家族の力、社会資源等を有効に利用できる関係性が築けるように入居時から取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天津風だよりでイベントの案内を出し、入居者様に会いに来やすいような環境作っている。入居者様からの希望があれば家人や知人へ電話をかけていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休む際、話が会いそうな入居者様同士が隣になるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった入居者様の49日や1周忌の法要に合わせてお花を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時に本人の希望を聞き、本人本位の支援ができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事務室に、介護ファイルやモニタリングファイルを置きいつでも職員が必要な時に閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の行動パターンや自立できることや好みを日々把握しながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場情報を収集し、3か月の定期モニタリングや毎日の申し送り時に共有し、介護計画にその内容を盛り込み随時更新している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、毎時様子や反応を記録し、共有できているため見直しや実践ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化や家人のニーズなども踏まえて実行案を提案し、ニーズの充足に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や地域のボランティアなども利用し、安全に心身を自立できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族や本人の意向を伺い、医療的な支援をしている。施設の主治医かかかりつけ医にするかを選択して頂いている。救急搬送時も同様です。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良の時は看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院のS. Wと定期的に連絡をとり情報交換をしておく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、医師、看護師から本人の状況に応じて情報交換を行い、その後の治療方針を決めている。その情報は医療用のSNSを通して素早く看護師、介護職などに伝え対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は行っていないが、急変や事故発生にはマニュアル化した手順に従い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	原則月に1回の夜間想定避難訓練を行い、職員が身につくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ丁寧な言葉かけを心がけ人格を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限りの範囲で個人の希望に沿った支援が行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日で変化する心身状態をより理解できるよう観察し、本人の希望も取り入れ、洗濯たたみなども手伝って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型を気にする利用者にはヘアアクセサリーを用意し、その日の気分で選んで頂くなど本人の楽しさを引き出す支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日のメニューを掲示し、利用者とのコミュニケーションで話題にすることで食事への関心や意欲を引き出す支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	早食いをして体調を悪くする利用者には、分食で提供するなど個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医指導の下に歯間ブラシや舌ブラシも利用している。本人の能力に応じた介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンを考慮した誘導を行っている。起立ができる方はトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を午前・午後と食事以外からも摂取するように取り組んでいます。自家製のヨーグルトの摂取もしています。便秘予防の献立も活用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に一度の入浴日に体調や気分を伺ってから、入浴していただくように心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、床暖房、加湿器を使用して室温の調整を行い、住環境を整えています。日中の休眠時には個々のソファも活用しています。その時々合わせたアロマの香りを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能や副作用については個別のモニタリングシートに記入し理解に努めている。また、変更時も履歴がわかるように様式を変更した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿って、洗濯物の整理や調理、清掃の補助などをして頂いている。自分の役割が毎日の生活のはりになるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必ずしも日常的に外出できるとは言い難い面がある。しかし、外出支援行事を通じて本人のニーズを満たせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の強い要望がある時には、なくなってもかまわないような金額を家族同意の上で所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の携帯を使われる方はスタッフが操作を手伝ったりして話して頂いている。以前は手紙を書かれる方には投函の補助などをしてきた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、香りなどが適度に保立てるような住空間づくりを心がけている。季節感を感じられるように花や壁掛けの絵を変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間帯は、原則どこにいても自由になっており、気の合う同志が話をしやすいように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や賞状などを飾ったり、独居の方の場合仏壇を置いている場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に入居当初は場所の把握が難しそうなため、早めの声掛けを心がけている。トイレなどの表示にはもうひと工夫必要かもしれない。		